

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら運河駅前教室（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年7月15日	～	2025年7月31日
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	11	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	2025年9月2日	～	2025年9月20日
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年10月14日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月のプログラムが充実している。季節に合わせた制作や旬の食べ物を使った食育が行われている。職員間でプログラムの立案もを行い、相談しながら行っている。	取り組むプログラムが固定化されないように、利用児たちの利用状況などを見て計画している。また、個別活動と集団活動のどちらかに偏りがないように工夫している。	プログラムを行って、良かった点や改善点について振り返りを行い、次回のプログラム立案へ活かしていく。5領域におけるプログラムの目的を職員間で確認し、共通理解をしてスムーズに進められるように準備や打ち合わせを行う。
2	利用児たちの様子や支援内容などについて、職員間で情報共有がされている。	朝礼や昼礼を行い、プログラムの進め方や利用児たちの様子を共有して支援をしている。支援後には、振り返りの時間を設け、良かった点や改善点などを職員間で共有している。	途中で退勤した職員や、出勤していなかった職員にも共有できるように、振り返りノートへの記入を行う。利用児や保護者の変化や困りごとも職員で共通理解できるようにミーティングを定期的に開催していく。
3	ミーティング等で各種研修会の開催や、外部研修等にも参加する機会を作っている。向上心を持った職員が多く、研修参加を希望したり、利用児たちと一緒に成長していくこうという意識をもって療育にあたっている。	定期的にミーティングを開催し、その中で支援内容、感染症対策、虐待研修等、各種研修会を開催している。外部の研修にも参加しやすいように費用を負担したり、スケジュールの調整を行っている。	ミーティングに参加できなかった職員にも内容が共通理解ができるように、議事録の作成や職員連絡ノートを活用していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他健常児や他施設との交流の機会が持てず、まだ実施できていない。	安全面の配慮や、コロナやインフルエンザの感染症の感染対策のことを考えると、多くの人数が一緒に活動することは難しい。今のところは受け入れ先もないため難しい状況である。	健常児との交流は難しいところがあるが、こばんはうすさくらの他教室と交流する機会を作り、普段関わらない子と関わりを設けられるようにする。
2	保護者会の開催ができていない。	感染症対策のことを考えると、ここ数年は開催できていない。一教室に多くの人数が集まって話をし、交流することに不安がある。	コロナが流行する前は、保護者会を開催していて好評だった。コロナも落ち着いてきたので、少人数で分散しながらの開催を計画している。
3	地域に開かれた事業ができていない。	個人情報の取り扱いの観点から考えると、地域の方々と交流することで個人情報が漏洩してしまわないか、不安がある。	地域の人との交流はなかなか難しいところはあるが、外出プログラムの時に訪れた場所や施設にいる方々と交流を図る機会を作っていくようにしたい。